

施餓鬼というは 六道に迷う靈を供養するらん

経誦し舞う僧ら鬼面の如し 靈かかりしかと思ふ

経誦し木魚打つ僧の首筋に 汗吹き流る

歩いて来た道を見下ろす 息一つ腔はらに吸い吐く

ヒグラシの振る鈴涼し 林道たちまち暮れゆく

電車行き交う音夢現ゆめうつに聞く 鍼治療院にいる

秋の虫がいずここにいる 街灯の下忍びゆく

菩提樹咲くを見上ぐる 訪ね来たりし二三人

菩提樹花終わり実となり 古寺いま暮れ落つ

カワセミと目が合う瞬とぎ 一メートルの距離に

西日高くあり 大宰府古道湿か風ぜに吹かれゆく

川原に微けき音あり 水草分け清水流るる

息をするだに苦し 暑熱籠もれる部屋に伏せり

侘助の葉黒々として 炎熱の中蕾次々孕みおり

枝揺るる気配あり 蛇涼しき葉下を渡りゆく

厚き雲垂れ込め夏日中 地を焼き蒸らすが如し

トネリコの細枝に蟬あり 祈るが如く産卵す

シヤラの花ひそかに咲きて 売家の庭荒るる

濁流襲う 大震災の片付けなどならぬというに

噴水西日を束ね 五月の子らに向かい散る

レトロ館に入る 深紅の絨毯爪先で踏み

唐戸市場半ば閉店 台風過ぎにし日にあれば

みずぐが芙美子が踏み歩きし街 波光る海峡

神社海峡を眼下に 維新の幕開けを果たせり

レベル七となる 世界を歴史を鮮血に染む

放射能汚染 魔が魔を呼び起こす連鎖止まず

土が海が空が 魔の手に掴みとられたるが如し

益するもののために隠匿する 悲しき習なり

想定外という言葉虚しく 宙そらに零れ落ちゆく

想定外では済まぬ 余震の激震果てしなく続く

花咲けるとも 胸踊らぬ季節ただに移り行く

韓国語飛び交う参道を 上り下り来たりしこと

大震災ゆえに人淋し 参道まばらに風流る

草筆るとき 蝶きて羊歯の歯に止まり動かず

病める蝶か羽根広げしまま 落ち震えおり